

特別寄稿

「第51回 野間読書推進賞」を受けて

このたびは日々重ねてきたことが、思いがけずに大きな賞をいただくことになり、たいへんとまどつております。

幼いころより本が好きで、出会ってくださった方々から多くのものをいただき、いまでも多くの方々に支えられて今日があると感謝しております。この賞は今回ひとりがいただいたものではなく、同じように地道に活動をされている多くの読書ボランティアの方々に贈られたものと思っております。野の花のように小さな花が咲き実を結び風に吹かれて種が飛び、また、花を咲かせて広げていくのが私たちの役割かと思えます。そういう多くの方々が、つぎの世代に本の楽しさを繋いでいってくださっていると思えます。

私自身の読書歴を考えてみますと、眠る前に母が、おはなしを聞かせてくれたこと、小学3、4年生の担任が毎日国語の時間に宮沢賢治を「今日はここまで」と読んでくださって、その先が気になり学校図書館に走ったこと、それから図書室の片隅で多くの本と出会い、本を開く幸せな時間を過ごしてきました。学生時代「きみたちがお母さんになったときに子どもに本を読んでもらえたまえ」ということばをくださった椋鳩十先生、母となり、わが子や地域で同じ想いの方々との地域文庫活動、松岡享子先生との出会いで耳で聴く読書、おはなしの世界の楽しさも知りました。そして、ホスピス病院内に「ひだまり文庫(現在は、吉野町の絵本館に移転)」を作り、どんな場所にも本のある生活をということが、学びの会に繋がっていったかと思えます。

県立図書館ボランティアグループ「さぎなみ」は、“本が好き、図書館が好き、人が好き”な方々が集まり、図書館が支援してくださっています。図書館と利用者の方を繋げる図書館ボランティアの役割と、子供たちと本を結び付ける読書ボランティアの役割という、二つの役割を担い、長年、子供たちの現場で絵本やおはなしを届ける幸せな時間をいただいております。また、ストーリーテリングの会「おはなしの森」は、「自分たちでできることは」と学びあいながら講師を招いての児童文学やおはなし会、おはなしの講座を開催し輪を広げています。九州各県の語り手仲間や東京子ども図書館の講座修了生の方々との交流も続けながら皆と無理せず、楽しみながら、活動を続けていきたいと思えます。

今回、受賞の帰りを待っていたかのように、ともに活動していた友人が旅立ちました。2年半の闘病生活の中で、いつか子供たちの現場に帰りたいと申しておりました。彼女の想いととも、これからも皆と歩いてまいりたいと思えます。

令和3年11月 鳥羽 啓子

野間読書推進賞とは

「野間読書推進賞」は、(社)読書推進運動協議会が「読書週間」の関連事業として、1971年に創設したもので、地域・職域その他で、読書の普及に多年尽力し読書推進運動に貢献された団体個人を顕彰するためのもの。毎年、「読書週間」期間中に東京にて贈呈式を行っている。

出典:「野間読書推進賞 全記録(1971~2009年)」社団法人 読書推進運動協議会